

LED照明設備導入の背景

- ・水銀灯ランプ及び蛍光灯器具については、国内製造が終了しており施設によっては代替品にて対応しているケースがある。
- ・蛍光灯ランプは近年高騰しており、メーカーによっては令和5年10月から約40%の値上げが行われる。
- ・国は、2030年までに政府全体の施設についてLED化100%を目指している。
- ・照明設備のランプ交換が、施設職員の負担となっている。また、高所の機器については高所作業車が必要となるなど維持費用が高額となる。

照明設備のLED化によるメリット

- ・既存照明のLED化により、電気代を約60%節約可能。
- ・蛍光灯の光源寿命が約10,000時間に対し、LEDは約40,000時間と長く、管球交換の作業も削減可能
- ・機器の発熱が少なく火災リスクが低い、またガラス等を使用しないため地震時の落下による事故のリスクが低い。

リースを導入することによるメリット

- ・複数施設にLEDを導入する場合、一時的に多大な費用を要するが、リースの場合コストの平準化が可能となる。
- ・リース期間中は、照明設備機器の維持管理・故障対応は事業者により無償で実施。
- ・リース終了後（10年後）は、市へ無償譲渡。

● 単月の費用配分イメージ



令和5年度導入予定施設

もえの丘

保育園（3園）

図書館・歴史民俗資料館

健康ドーム

中学校グラウンド照明（2校）

※小中学校や給食センターについては、今後の導入にむけ検討中

健康ドームでの試算結果（例）

	既存照明	LED導入後
消費電力量 (kwh/年)	656,006	238,626
従量電気料金 (10年間)	164,608,215	59,877,247
交換ランプ費用 (10年間)	17,640,488	0
リース費用 (10年、税込み)	0	85,617,912
計	182,248,703	145,495,159

36,753千円のコストメリット